

平成31年度 学校経営計画・学校評価シート

高知県立高知若草特別支援学校子鹿園分校

《高知県の教育の基本理念》	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りをもち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	目指すべき姿	学校像	○児童生徒が自己実現を達成できる学校 ○保護者が成長と発達を実感できる教育を行う学校 ○地域になくてはならない存在として愛される学校 ○教職員が仕事に誇りをもち、やりがいをを感じる学校	目指すべき組姿の概要に	学校経営の大きな4本柱として、Ⅰ教育課程の改善、Ⅱ主体的・対話的・深い学びの推進、Ⅲ文化・芸術・スポーツの振興、Ⅳ働きやすくやりがいのある職場の実現に取り組む。 肢体不自由の特別支援学校として、専門家と連携した教育を進めるとともに、南海トラフ地震対応や、日常的な医療的ケア、日々の指導・支援において安心・安全な学校づくりを進める。 また、隣接する高知県立療育福祉センターのリハビリテーション部や病棟と連携し、児童生徒のより良い支援につなげるよう指導の充実を図る。
《取組の方向性》	①チーム学校の構築 ②厳しい環境にある子どもたちへの支援 ③地域との連携・協働		児童生徒像	○何事にも主体的、意欲的に取り組む児童生徒		

《重点取組項目》

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目		取組ねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】		
専門性の向上	教育課程の改善	◎教科の内容を重視した指導の一層の充実と評価の改善 ○教科別指導や合わせた指導の改善・充実を図る。 ○個別の指導計画における評価から指導の充実へのサイクルを確立する。 ○個別の教育支援計画及び個別の指導計画の様式について見直しを図る。	○教諭に加えて、期限付講師も含めて全員が年1回は公開授業を行う。併せて、その授業を基に実践事例を各学習グループから1例作成する。(7例以上) ○個別の教育支援計画及び個別の指導計画の様式について検討し、新様式が12月中に完成する。	■実践事例集の活用 ・活用により教員の困り感の軽減 ・活用により教員の授業力の向上 ・新たな実践の蓄積 ■新教育課程の編成 ・Ⅰ類型:教科の時間増 ・Ⅱ類型:教科の目標、内容を重視した指導形態の検討 ・Ⅲ類型:当該学年の目標達成、内容習得を目指す(必要に応じて前学年・前学期の内容を復習) ・教育課程検討委員会の実施	B	○公開授業実施率45.2%(14/31)で研究協議も必ず実施できている。(9月末現在) ○実践事例集の活用ができているのか確認方法がない。 ○新教育課程の編成については、来年度に向けて教科等の時間数や校時表の見直しを行っている。	■公開授業は、12月中に全員が実施する。 ■実践事例集の活用 ・実践事例集の活用を意識できるような教職員への周知を実施する。 ・実践事例集の活用を学校評価アンケートで確認する。 ■個別の教育支援計画及び個別の指導計画の様式については、若草4校で新様式を作成する。	B	○公開授業及び研究協議を100%(31/31)実施する中で、教科指導や合わせた指導の充実が図れた。 ○実践集録を全員が作成したことにより、指導内容の蓄積が図れた。 ○指導と評価の一体化・充実を目的にした個別の教育支援計画及び個別の指導計画の新様式を本分校で統一することができ、3学期より一部記入を始めた。 ●新様式の個別の指導計画が、教育課程の改善につながることを理解し、記入ができるように周知する。 ●授業改善のPDCAが教育課程の改善につながる意識をもって取り組むことが課題である。 ●教科の指導内容の系統性や充実を図ることが課題である。 (4)学習のねらいや評価についての説明 ①11.4% ②68.6%③14.3%④2.9%⑤2.8%	A	○専門性の向上については、先生方の熱心な取り組みにより、年度当初に計画していた内容が取り組みており、達成できている。 ①個別の指導計画の新様式を活用した指導と評価のPDCAサイクルを確立する。 ②児童生徒の実態に応じた年間指導計画や単元計画表の作成を進め、教育課程の振り返りにつなげる。 ③授業づくりのPDCAサイクルを徹底し、主対深の視点での授業改善を一層推進する。
	学校設定項目	◎「主体的な学び」と「対話的な学び」の推進、「深い学び」の追求 ○「主体的で対話的な深い学びの視点での授業改善シート」の改善・充実を図る。 ○ユニバーサルデザイン、高知県授業づくりBasicガイドブックに基づき授業改善を図る。	○Ⅲ類型児童生徒の満足度(学校評価で、「授業が分かるか」について、「そう思う」回答)70%(H30:44.2%)以上。 ○公開授業での「主体的で対話的な深い学びの視点での授業改善シート」活用率100% ○授業における『育成を目指す資質・能力(＝評価の3観点)』を検証する。 ・知識・技能 ・思考力・判断力・表現力 ・学びに向かう力、人間性等	■公開授業から得た成果と課題の分析 ・効果のある実践の検証と、授業改善へのチャレンジ ■検証すべき視点の「見える化」の継続実施(授業改善シートや付箋の活用) ■Basicガイドブックに基づいた授業の実践 ・教科担当センター指導主事を招聘した、Ⅲ類型対象研修会の開催	B	○公開授業から得た成果と課題を分析し、次の実践に活かせるよう改善点の確認を実践している。 ○公開授業後に授業改善シートや付箋、ホワイトボード会議で研究協議を実践し、改善点が見えるように取り組んでいる。 ○Basicガイドブックに基づいた授業の実践のために、本校で行われた、教科担当センター指導主事の研修会に参加し、理解を進めることができた。	■公開授業から得た成果と課題の分析 ・公開授業→研究協議→改善した授業実施→実践事例の作成を全員で取り組む。(100%) ■検証すべき視点の「見える化」の継続実施(授業改善シートや付箋の活用に加えて、ホワイトボード会議の実施が100%。)	B	○主体的で対話的な深い学びの視点で公開授業→研究協議→改善した授業実施→実践事例の作成を全員で取り組み検証し、更なる授業改善に努めている。(100%) ○授業改善シートや付箋の活用に加えて、ホワイトボード会議の実施が100%行われ、改善点を明確することができた。 ○Ⅲ類型の授業では、Basicガイドブックに基づいた授業の視点を意識することができた。 ●Ⅲ類型児童生徒の満足度については、アンケートの「(3)授業が分かるか」に「そう思う」回答)52.8%(H30:44.2%)、昨年より少し上がっているが、更に授業改善の取組が必要。 (3)児童生徒の力を育てる授業について ①8.6% ②77.1% ③11.4% ④2.9%⑤0.0% (5)主体的、対話的で深い学び 【肯定的回答】80%(H30:79.1%)	A'	○学校設定項目は、各先生方がしっかりと児童生徒のために授業改善に取り組んでいる。 ●Ⅲ類型の児童生徒の満足度の70%以上が、未達成という課題が残る。 ①自立活動の指導内容を明らかにし、より実態に即した指導、支援を行う。 ②自立活動と教科の指導内容について必要な整理を行う。
キャリア教育の充実	文化・芸術・スポーツの振興	◎文化・芸術の推進 ○総文祭に向け、文化・芸術に関連した学習及び発表により社会参加の一層の推進を図る。 ◎体育・スポーツの振興 ○体育の授業に障害者スポーツの競技種目を取り入れ、関係機関と連携して一層の充実を図る。	○文化・芸術・スポーツに関連した行事・校外学習の実施 ○全児童生徒一人一品以上の作品の出品 ○障害者スポーツ大会への初参加生徒3名、全参加者5名以上 ○交流及び共同学習、行事等でのポッチャの実施回数3回以上 ○体育についての実践を蓄積する。(各学習グループから1事例以上)	■出品率の向上 ・作品展を意識した年間計画の作成 ・スキル(基礎・基本)の習得 ・児童生徒の強みを生かした作品制作 ・総文祭プレ大会におけるパフォーマンスの実施(学校行事としてかわる) ■スポーツ大会等への参加者の増加 ・逐次、大会参加要項等を廊下等に掲示し、参加意欲の喚起 ・スポーツ大会の活躍を掲示 ■児童生徒の社会参加を目的としたバラスポーツの普及啓発 ・学校間交流において、ポッチャ等バラスポーツの計画 ■体育に取り入れるスポーツの検討 ・児童生徒の主体的な動きを引き出す活動の研究	B	○紙と遊ぶ作品展に3グループが出品できた。出品率48.5%(17/35) ○総文祭プレ大会のステージ発表(合同発表)に向けて児童生徒会が中心に取組を進めている。また、2020高知総文祭に向けて全校で作品作り取組中である。 ○障害者スポーツ大会へ3名、フライングディスク大会に3名参加した。 ○大会参加要項等を廊下等に掲示し、参加意欲の喚起している。 ○学校間交流において、ポッチャ等を実施。 ○体育でポッチャやフライングディスクを取り上げて実施。	■文化・芸術に関連した校外学習の実施 ○障害が重いクラスの児童生徒の作品が出品できる作品展を探し紹介する。 ■スポーツ大会等への参加者の増加 ・ジュニアポッチャ大会への参加について啓発する。 ・龍馬マラソンでのファンランへの参加を呼び掛ける。	B	○作品展への出席 31/35(88.6%)(H30:77.4%) 作品の出品や入選などにより子どもたちの自信や意欲につながっている。授業式へ参加するための送迎や入選した子どもの作品を保護者が子どもと一緒に見に行くなど保護者の意欲も高まっている。 ○2020こうち総文のプレ大会に児童生徒の代表9名が参加し、他の学校の児童生徒と一緒に活動し交流する場を持てた。 ●園芸工作や美術の年間計画の中で計画的に作品の出品にまでつなげる計画をすべてのクラスで意識できるようになることが課題である。 (4)美術作品鑑賞 【肯定的回答】91.4%(H30:87.4%) ○保護者の送迎や応援での協力があり、児童生徒が障害者スポーツ大会(3名)、フライングディスク(3名)、高知県ジュニアポッチャ大会(2名)、高知龍馬マラソンファンラン(7名)等に出場して活躍できた。 (5)スポーツ活動 ●昨年より障害者スポーツ大会に出場する者が増えてきたが、同じ児童生徒の参加となるため、今後も掲示等での取組や保護者への啓発が必要。 【肯定的回答】77.1%(H30:82.5%)	A'	○キャリア教育の充実では昨年度より、作品展への作品の出品した児童生徒が増えており、身障者スポーツ大会への参加者も増えている。 ○作品展への出品やスポーツ大会において、それぞれが活躍している。 ●身障者スポーツ大会等への新たな参加者の広がりという課題が残る。
	働き方改革	◎時間と労力の無駄を省き、子どもに向き合う時間を確保する。 ○校務分掌等の整理や業務内容の精選・見直しにより、会議の縮減と時間の短縮を図る。 ○教職員のメンタルヘルスの意識の向上を図り、明るい職場づくりを実現する。 ○高知県立療育福祉センター(P、T、O、T、ST)との連携を図り、日々の指導に生かす。	○教員の教材研究の時間確保満足度(学校評価アンケートでの「そう思う」・「ややそう思う」回答)70%以上 ○研究日の開催、月2回程度。 ○教材研究の日、月2回実施。 ○高知県立療育福祉センター(P、T、O、T、ST)との連携を図り、日々の児童生徒の学校生活の支援方法を改善する。	■教員の教材研究の時間確保 ・教員の満足度70%以上をめざす ・会議開催の工夫、時間短縮、削減(取組を数値化し「見える化」を図る) ■休憩時間の確保 ■教材研究の日を月に2回は実施 ■ノー残業デイの継続実施 ■SCを活用した研修会の実施 ■個々の児童生徒のリハビリの担当者に学校での生活を見てもらい、支援の方法を教えてください。	C	○教員の教材研究の時間確保のために、会議開催時の工夫、時間短縮、削減を実施し、週1回は、会議のない日を作るための調整ができた。 ○休憩時間には会議を入れないようにしている。 ○2学期より19時には学校を閉めることを実施し始めた。 ○ノー残業デイは、夏季休業中しか実施はできなかった。 ○SCを活用した研修会は、夏季休業中に実施できた。 ○個々の児童生徒のリハビリの担当者に学校での生活を見てもらい、支援の方法を教えてください。	■教材研究の日を週に1回は実施。 ■学期末の成績処理等の繁忙期頃は、1週間会議を設定しない。 ■来年度の学校行事の見直しを行う。 ■校務分掌の見直しを行う。 ■19時には全員が帰宅する。	C	○会議の実施日を調整し、教材研究の日を週に1回は確保した。 ●教材研究をする時間は不十分であり、継続課題である。 ○来年度の学校行事の見直しを行なった。 ○9月より、19時退勤を実施。 (11)昨年と比べた教材研究の時間確保 【肯定的回答】25.7%(H30:50.6%) ○療育福祉センターの職員による研修を4回実施でき、教職員の資質向上が図れた。 ○児童生徒は全員が学校に滞在中にリハビリを受けることができ、リハビリの内容を学校生活に取り入れるように心がけることで、児童生徒への適切な支援につなげることができた。 (8)療育福祉センター(P、T、O、T、ST)との連携 【肯定的回答】85.8% (H30:91.6%)	C	・在校時間が長くなると、健康をむしろ犠牲にしている。先生方本人の達成感と健康面に気を付け、体調を崩すことで生徒さんに迷惑をかけることがないよう、バランスを取りながら取り組んでほしい。 ・働き方改革に関しては、これが始まりであり、社会的にも目が向けられている。 ・若い先生の方が早く働き方を変えられるかもしれない。世代間ギャップの中での取組になるかもしれない。 ●先生方自身に課題意識をもってもらい、より認識してもらうことが必要。